

デフ陸上教室

2023年2月4日(土)にデフ陸上教室を開催しました。

ヤマダホールディングス陸上部から東京オリンピック陸上男子400mハードル日本代表の安部孝駿選手、2014年インターハイやり投げ優勝の愛媛県出身の森秀選手と、県内在住のデフリンピックサムスン2017陸上女子走幅跳日本代表の谷岡真帆選手をゲストとしてお招きしました。

前半は、小中学生の児童生徒を対象に、デフリンピックについて、谷岡選手からお話しをしてもらいました。その後、陸上競技に親しむための交流を運動場で行いました。

後半の陸上教室では、安部選手にハードル、森選手にやり投げのデモンストレーションをしてもらいました。「腕を振る時の手は卵が割れないように持って腕を振る。」など、速く走れる方法を教えてもらったり、光刺激スタート発信装置(スタートランプ)を使って体験したりしました。日本のトップ選手の試技に子どもたちからは歓声が沸き、交流活動として行った全員リレーでは見ていた保護者の方の声援もあり、大変盛り上がりしました。

日本のトップ選手を目の前に、「大変良い刺激となった。」と喜びの声を聞くことができ、とても貴重な活動となりました。

安部選手、森選手、谷岡選手、ありがとうございました。



光刺激スタート発信装置

陸上競技のトラック競技は、スターターのピストルでスタートします。音が聞こえにくい選手は、スタート用のピストルの光、または煙を見てスタートします。ピストルの光や煙を見るための顔を上げる不利な姿勢は、スタートで出遅れる原因になります。

今回紹介する本装置は、その課題を解消するための光刺激スタート発信装置システムです。

スタート発信装置でスタート信号を検知し、LEDの発光色によって、選手にスタートの合図を知らせします。



赤 : 位置について
(On Your Marks)
黄色 : ようい (Set)
緑 : バン (Bang)



聴覚障がい児の逸失利益が平均賃金の 85%？！

大阪市生野区で 2018 年、重機にはねられて亡くなった府立生野聴覚特別支援学校小学部 5 年の女兒（当時 11 歳）の遺族が、加害者の運転手らに対して損害賠償を求めた訴訟の判決が先月 27 日、大阪地裁であったことが大きなニュースになりました。争点となったのが「逸失利益（いっしつりえき）」です。これは、就労により、この女兒が将来得られたはずの収入の算定基準をどのように判断するかというものです。結果、「全労働者の平均賃金の 85%」を基準に算出するのが相当であるとの判決でした。同公判において裁判官は、「被害者には将来、様々な就労可能性があった」と前置きしつつも、「聴覚障がい者はコミュニケーションに支障をきたすため、労働能力が制限されるのは否めない」としました。よって、全労働者の平均賃金である約 500 万円を基に 15%減額した 85%が適当であるとして、被告側に約 3700 万円の賠償を命じたというものです。損害賠償額について、被告側は最初、全労働者の平均賃金の 60%に相当する聴覚障がい者の平均賃金を基準に算出すべきだと訴えていました。これに対し、裁判官は、合理的配慮が求められるようになった最近の法整備や、意思疎通を図る上での手助けとなる情報端末機器の進歩などを考慮すれば、今回の被害者である聴覚障がい児が働く年齢になった頃には、大幅に環境改善が見込まれるであろうとの判断から、85%に上げたというものです。

今回の公判では、被害者の当時の担任 2 名が弁論のため法廷に立ち、裁判長からの求めに対し、聴覚障がいの「聴力と学力のレベルは関係がない」と証言しました。ただ、この証言の意味がどれだけ裁判官に伝わったのでしょうか。今回の判決を受けて、聾学校に関わる私たちの中には、「聞こえない」人の存在価値が、「聞こえる」人の 85%である判断されたようなものと感じた人もいるのではないのでしょうか。現に、聞こえる人でもなかなかない弁護士や医師として活躍する聴覚障がい者がいることを思えば、同じ人間としての可能性まで否定されたように感じられてなりません。悲惨な目に遭い、奪われてしまった命の重みまでがこのように数値で示されたことに、何ともやりきれない気持ちです。

難聴児の切れ目ない支援体制構築の動向

現在、文科省・厚労省の共同で難聴児発達の早期支援体制の構築に向けた動きがあるのをご存知でしょうか。

すでに国は検討会を終え、自治体向けに「難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針」を出しています。方針の内容は、難聴児やその家族にとっての支援の充実が図られる内容となっています。今後の、愛媛県における動向に注目していきたいと思います。概要の一部を紹介してみます。

□ 基本的取組

- 新生児聴覚検査の実施状況の把握と関係機関での共有
- 県における難聴児支援担当部局を明確化
- 難聴児とその家族等に対する支援課題を関係者で共有、支援の充実を図る。
- 特別支援学校のセンター的機能の強化、専門性向上
- 地域における保健、医療、福祉の連携した乳幼児教育相談の取組。

□ 地域の実情に応じた取組

- 関係機関での日常的な連携や情報交換・・・情報共有のため協議会設置
- 難聴児及びその家族等のロールモデルやメンターとして、当事者・当事者支援団体を連携体制に含める。

講演の紹介

現在、愛媛県歴史文化博物館では特別展「学校の宝物」が開催されています。その関連講座の一つとして下記のような森盲天外さんについてのお話があるようです。本校にも関係しますが、愛媛県の聾学校を設立した偉人です。

ちょっと、話題がそれますが、昔は、聞こえない人と見えない人が一緒の学校で学んでいました。手話「誰？」の表現は、当時の生活が語源となっています。盲ろう学校時代、盲の人が、ろう者を誰か確認するために顔を触っていた仕草が「誰？」ルーツのようです。

講師は、本校でも教員として教えられていた柚山俊夫先生です。

◆特別展関連講座

「私立愛媛盲啞学校と森恒太郎～愛媛における障がい者教育のはじまり～」

日時：3月19日（日）13:30～15:00

場所：愛媛県歴史文化博物館（西予市宇和町卯之町）

講師：柚山俊夫氏（伊予史談会副会長）

※事前申込が必要（定員 80 名）

◆特別展 学校の宝物

日時：令和5年2月11日（土・祝）～4月3日（月） 休館日あり

9時～17時30分（入館は17時まで）

場所：愛媛県歴史文化博物館（西予市宇和町卯之町）

観覧料：大人 450 円、小中学生 250 円

アプリの紹介

指文字練習のためのアプリを二つ紹介します。



◆「Yubimoji」

指文字をクイズ形式で学べるアプリです。頑張ってポイントをためたり、指文字スタンプカードを集めたり、楽しく学べます。幼児向けで、楽しいです。

◆「指文字ムービーメーカー」

入力した平仮名を、指文字付きのムービーで自動出力してくれます。1文字ずつ一連の流れで再生し、最後に単語や文などの全体を表示します。静止画での保存も可能なので、日記などに印刷して貼ることもできます。ムービーは保存して、指文字練習に繰り返し活用できます。速度変更、縦書き横書きの表示切り替えが可能です。

映画「ヒゲの校長」を鑑賞して

先日、「ヒゲの校長」という映画を鑑賞する機会がありました。漫画「わが指のオーケストラ」を読んだことがある方はご存じだと思いますが、大阪市立聾学校校長高橋潔のお話です。

大正から昭和の時代、日本の聾学校の教育が口話法、手話禁止の流れに傾いたとき、ろう者のことばである手話を守った先生です。

当時の聾学校の雰囲気が感じられる

この映画から妻（醜子）や娘（依子）らと過ごす父としての一面を考えさせられましたし、日本で初めて聾者の劇団を作ったことも初めて知りました。

余談ですが、劇中には、吉本芸人「次長課長」河本準一さんが出演しています。多くの芸人が所属する吉本興業には「しゅわぶ」があり、部員に「麒麟」田村裕さんらがいることも知りました。愛媛で映画上映がある際は、ご覧になってみてください。